

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の実施方針に 盛り込むべき主な事項等について（骨子案）

1. 名称

2. 記述式問題

（1）記述式の定義

（2）実施方法

①パターン1（センターが形式面を確認、各大学が採点）の取り扱い

②パターン2（センターが段階別表示、各大学で確認）

※モデル問題・採点基準・成績表示

（3）実施時期・成績提供開始時期等

（4）次期学習指導要領下での記述式の取り扱い（例：地歴公民、理科）

3. 英語の4技能評価

4. マークシート式問題の改善

※モデル問題・採点基準

5. 対象教科・科目の出題内容・範囲

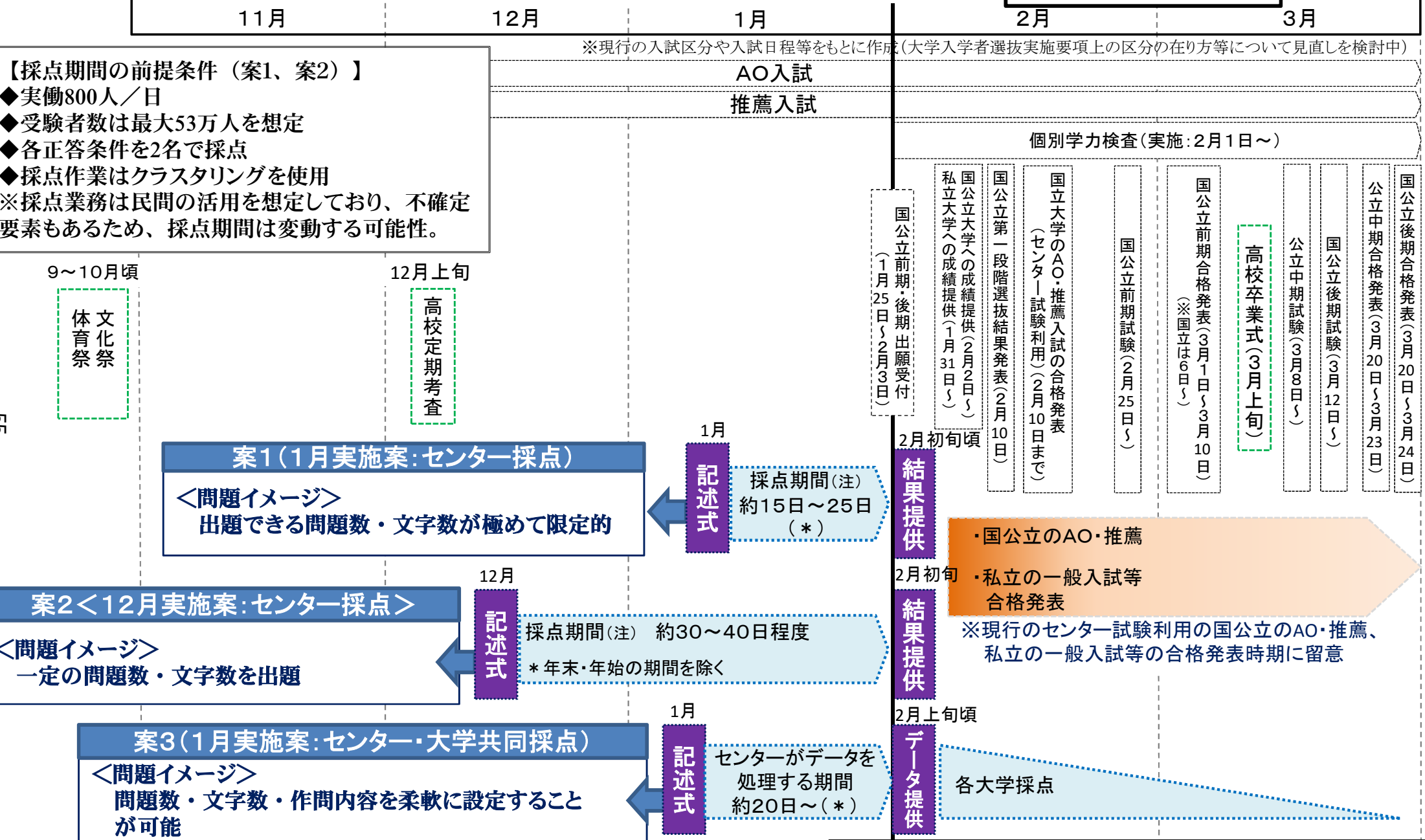
※古文・漢文の取り扱い

6. 結果の表示

7. 正式実施までのスケジュール等

※実施大綱（平成31年度初頭目途）又は実施要項（平成32年度初頭）で盛り込む内容

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の記述式の実施方法・時期のイメージ(たたき台)



(*) 実施時期を早めたり、結果提供の時期を遅らせることも検討。
(注) 採点期間には、採点の事前・事後の、採点基準の確定、研修、成績提供準備等に係る期間を含む。

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の記述式(国語)の実施イメージ(検討中の案)①

1. 記述式の導入趣旨

- 大学入学者選抜においては、現行の高等学校学習指導要領において、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・表現力等を育むため、言語活動(例:説明、論述、討論等)を重視していることを考慮する必要。
- このことは、初年次教育の効果的な実施など大学教育改革にも寄与。

<共通テスト>

- 左記の趣旨を実現するためには、各大学が個別試験で学習指導要領の内容を踏まえた記述式試験を全受験生に実施することが望ましいが、国立大学の個別試験でも記述式が約4割にとどまっている現状を踏まえ、各大学の負担をより少なくし、幅広く利用できるようにするため、共通テストでの出題を検討しているところ。

<個別選抜>

- 各大学の個別選抜においては、共通テストの積極的な活用を図るとともに、現行の高等学校学習指導要領を踏まえ、作問の改善や小論文等の導入を図ることが重要。

2. 共通テストの記述式について

- 各大学が共通テストの記述式の採点を行う案(いわゆる第3案)は、限られた期間の中で実施でき、作問内容の柔軟な設定が可能となるなどの点で優れた選択肢。
- 一方、上記1.の趣旨を実現するためには、大学の負担・体制や私立大学の入試日程、個別選抜との関係等も考慮しつつ、多くの大学が共通テストの記述式を活用できる選択肢も用意する必要。

パターン1:センターが形式面を確認、各大学が採点

- センターが形式面(字数・引用等)を確認するとともに、各大学に答案・採点基準と併せ提供。各大学の判断で採点・活用。

パターン2:センターが段階別表示、各大学で確認

※実現可能性について、更に検討が必要

- センターが段階別表示まで行い、各大学に答案と併せ提供。各大学で確認・活用。

※評価すべき能力の測定、採点可能性、識別力の観点を踏まえつつ、実現可能性について、フィージビリティ検証等を通じて見極めていく。

○ 新テストの実施方針で左記の取扱いを提示

○ 共通テストの記述式の活用を促進

※平成32年度以降、作題や採点の知見の積み重ねにより、作題の工夫、採点精度、識別力の一層の向上を図る。

※平成36年度以降は、平成32年度からの実施状況やC B T等の技術開発の状況等を踏まえつつ、更なる改善を図る。

記述式問題の実施【国語】イメージ(検討中の案)

1月

2月

3月

13日以降の最初の土日
→前倒しの可能性を検討

AO入試・推薦入試

個別学力検査(実施:2月1日～)

1/13、14

国公立前期・後期出願受付 (1月23日～2月1日)	私立大学への成績提供 (1月31日～) (2月2日)	国公立大学への成績提供 (2月2日)	国公立前期第一段階選抜結果発表 (2月8日)	国立大学のAO・推薦入試の合格発表 (センター試験利用)(2月8日まで)	国公立前期試験(2月25日～)	国公立前期合格発表(3月1日～3月10日) (※国立は6日)	公立中期試験(3月8日～)	国公立後期試験(3月12日～)	公立中期合格発表(3月20日～3月23日)	国公立後期合格発表(3月20日～3月24日)
------------------------------	----------------------------------	-----------------------	---------------------------	---	-----------------	-----------------------------------	---------------	-----------------	-----------------------	------------------------

※日程等は、平成29年度試験を基に作成

新テスト実施(記述式問題含む)

パターン1

各大学の判断で採点・活用

■センターが形式面を確認、各大学が採点
:20日程度

・大学の負担を考慮しつつ、フィージビリティ検証等を通じて明確化。パターン2より文字数の多い問題を検討。

1/31頃

データ提供

国公立

各大学で採点の上活用

データ提供

私立・国立AO・推薦(一部)

※希望する大学には早期に画像データ化した答案を提供

パターン2

各大学で確認・活用

■センターが段階別表示、各大学で確認
:20日程度

・フィージビリティ検証等を通じて明確化。短文記述式の問題(例えば、80字以下程度の問題)を検討(40字程度の問題を2問出題することも検討)。

2/3頃

結果提供

国公立

各大学で確認・活用

※ 平成32年度以降、作題や採点上の知見の積み重ねにより、作題の工夫、採点精度、識別力の一層の向上を図る。

- 国語の問題冊子の中にマーク式問題、記述式(パターン1及びパターン2)を盛り込む
- 受験生は各大学のセンター試験利用科目(受験要件)に従い解答
- パターン1及び2の組み合わせという方途もありえる

記述式問題の実施【数学】イメージ(検討中の案)

1月

2月

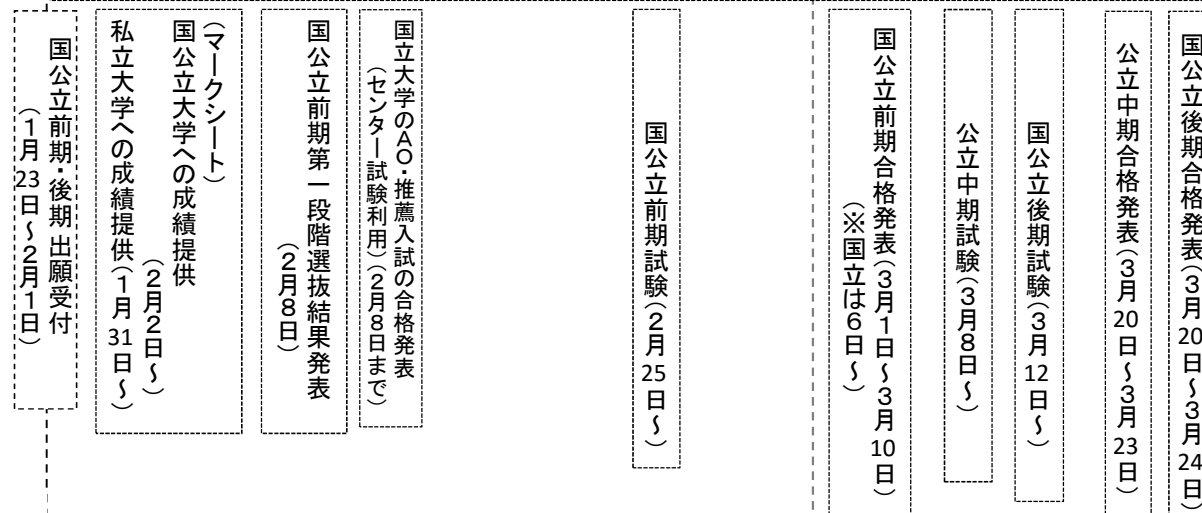
3月

13日以降の最初の土日
→前倒しの可能性を検討

1/13、14

AO入試・推薦入試

個別学力検査(実施:2月1日～)



※日程等は、平成29年度試験を基に作成

新テスト実施(記述式問題含む)

各大学で確認・活用

■センターが段階別表示、各大学で確認:20日程度

・フィージビリティ検証等を通じて明確化。3問程度(数式など)を検討。

2/3頃

結果提供

国公立

各大学で確認・活用

※ 平成32年度以降、作題や採点上の知見の積み重ねにより、作題の工夫、採点精度、識別力の一層の向上を図る。

○ 数学の問題冊子の中にマーク式問題、記述式を盛り込む

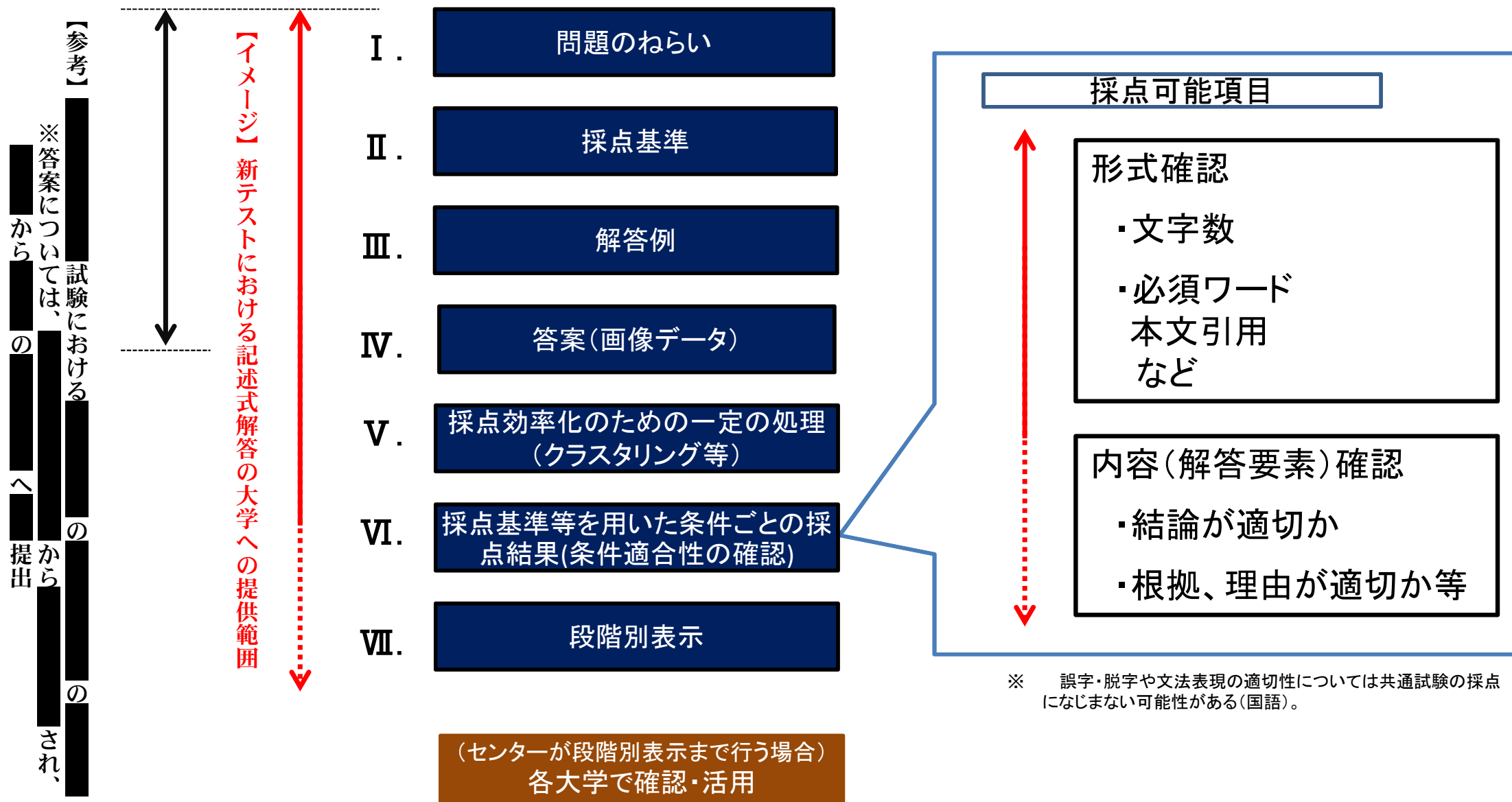
「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の記述式(国語)の実施イメージ(検討中の案)②

		パターン1	パターン2
		○センターが形式面を確認、各大学が採点	○センターが段階別表示、各大学で確認 ※実現可能性について、更に検討が必要
1. 問題の種類(主なもの)		○本文の内容を基に考えを文章化する問題 (より深く能力を問う問題)	○本文の内容を基に考えを文章化する問題 (基盤的な能力を問う問題)
2. 評価すべき能力の測定	解答させる内容(問題の例)と資質・能力、出題型式との関係について(たたき台)	○テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題だけでなく、それによって得られた情報を編集・操作して解答する問題 ※特に、「論理(情報と情報の関係性)の吟味・構築」や「情報を編集・操作する力」の評価を重視 (例) ・テキスト全体の論旨を把握し、目的に応じて必要な情報を付加、統合して比較したり関連づけたりして論じる。 ・複数のテキストの妥当性を吟味し、情報を統合・構造化して論ずる。	
3. 採点可能性	素材選定の工夫	○論理的な内容を題材にした説明、論説等 ○新聞記事・社説、会議等の記録、実務的な文章(取扱説明書、報告書、提案書等)、法律の条文等 ○統計資料(図表・グラフ) (例) ・問題イメージ例(交通事故問2:80~100字)	
	出題・解答のパターンの工夫	○解答に当たって使用すべき用語・表現の一部を指定。例:名詞、主語・述語、文末表現、類語 ○対話文・説明文の一部を抜き書きで解答させる。例:「文章の口に入る適切な内容を書きなさい。」 ○設問の中で情報間の関係性を提示して解答させる。例:「原因」又は「結果」に当たる部分を記述させる。 「Aについて、Bと比較して考えを述べなさい。」	
	採点者との関係	○大学向けの採点基準(内容面)の提供 ○国語の専門家以外の者(例:人文学以外の教員、高校の退職校長・教員など)も採点可能な内容	○国語の専門家以外の者(例:民間事業者)も採点可能な内容
4. 識別力		○中~高難易度	○中難易度
5. 文字数・問題数		○上記の点や大学の負担を考慮しつつ、フィージビリティ検証等を通じて明確化。パターン2より文字数の多い問題を検討。	○上記の点を考慮しつつ、フィージビリティ検証等を通じて明確化。短文記述式の問題(例えば、80字以下程度の問題)を検討(40字程度の問題を2問出題することも検討)。
		※平成32年度以降、作題や採点の知見の積み重ねにより、作題の工夫、採点精度、識別力の一層の向上を図る。 ※平成36年度以降は、平成32年度からの実施状況やCBT等の技術開発の状況等を踏まえつつ、更なる改善を図る。	

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の記述式(国語)の実施イメージ(検討中の案)③

		パターン1	パターン2
		○センターが形式面を確認、各大学が採点	○センターが段階別表示、各大学で確認 ※実現可能性について、更に検討が必要
6. 出題方法	6. 出題方法	出題科目「国語」の中で、マークシート式の設問と一体的な問題構成、又は、記述式のみの設問とすることを検討。	
	7. 試験時間	現行80分の試験時間の延長も検討。	
	8. 実施時期	現行の「1月13日以降の最初の土日」の設定について、前倒しの可能性を検討。 ※受験生側の状況や、年末年始の輸送、大学でのテスト問題の保管体制等を踏まえながら検討	
	9. センターの処理期間等	20日程度(民間事業者を活用) ※希望する大学には、早期のデータ提供を検討	20日程度(民間事業者を活用)
	10. センターからの提供データ	○画像データ化した答案 ○センターの確認基準(形式面) ○大学向けの採点基準(内容面) ○形式面の確認データ	○画像データ化した答案 ○センターの採点基準 ○段階別表示のデータ
	11. 提供開始時期	現行の「私立1月31日」「国公立2月2日」の設定(平成29年度入試の場合)について、数日後ろ倒しの可能性を検討。 ※希望する大学には、早期のデータ提供を検討 ※マークシート式の結果については現行通り	現行の「私立1月31日」「国公立2月2日」の設定(平成29年度入試の場合)について、数日後ろ倒しの可能性を検討。 ※マークシート式の結果については現行通り
	12. 大学での体制	大学教員(人文学以外の教員も含む)又は外部人材(高校の退職校長・教員など)で採点。	大学教員等で確認。

記述式に関する大学への提供データの範囲【国語】（イメージ）【検討中の案】



※採点については、採点者による採点(目視採点)を行うことを想定。

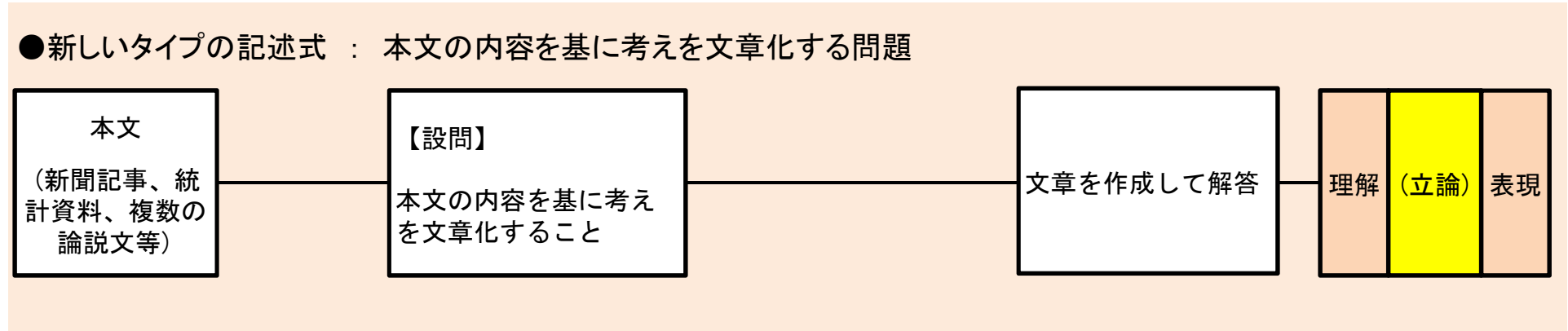
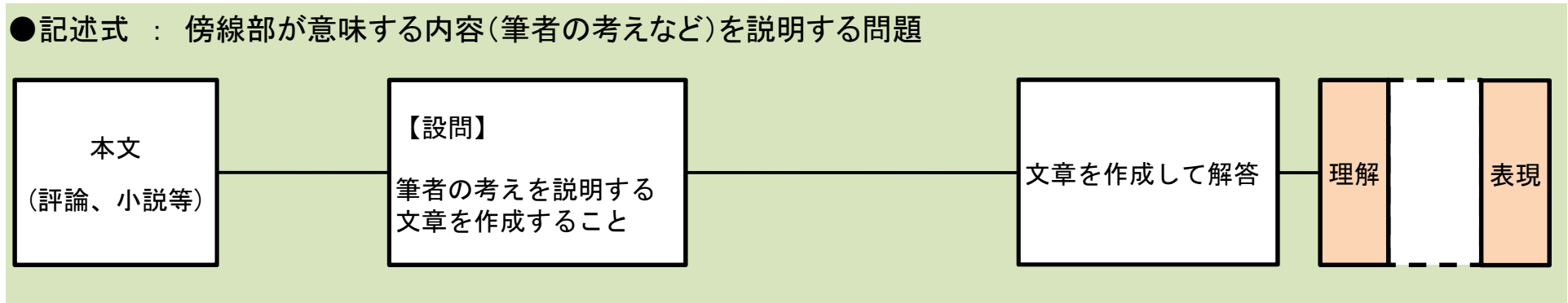
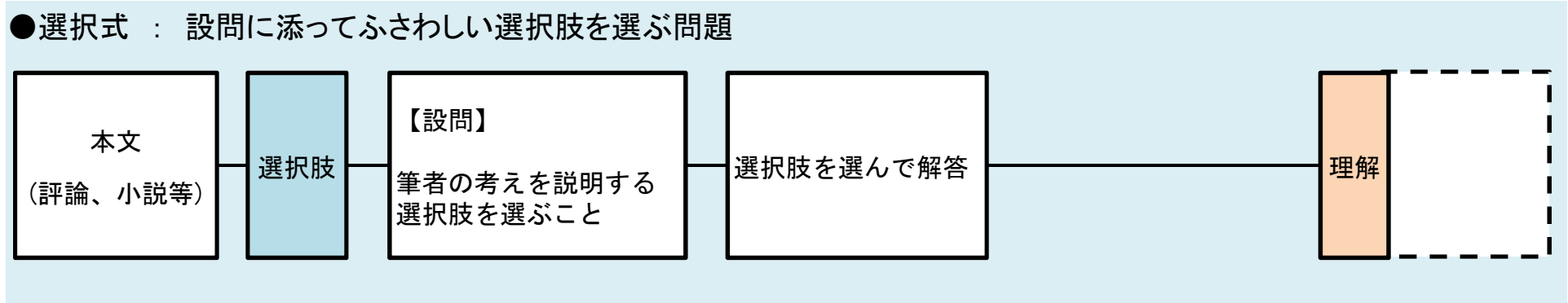
【国語】解答させる内容（問題の例）と資質・能力、出題形式との関係について（たたき台）

平成28年8月31日公表
「高大接続改革の進捗状況について」
(別添資料2 別紙3①)

	構造と内容の把握		精査・解釈	考えの形成・深化	
	知識・技能 (略)			考えの形成・深化(情報の編集・操作)	考えの形成・深化(知識・経験との統合)
			【創造的・論理的思考の側面】 > 情報を多角的・多面的に精査し構造化する力 ・推論及び既有知識による内容の補足、精緻化 ・論理(情報と情報の関係性: 共通－相違、原因－結果、具体－抽象等)の吟味・構築 ・妥当性、信頼性等の吟味 > 構成・表現形式を評価する力 【感性・情緒の側面】 > 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力 > 構成・表現形式を評価する力 【他者とのコミュニケーションの側面】 > 言葉を通じて伝え合う力 ・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解 ・自分の意思や主張の伝達 ・相手の心の想像、意図や感情の読み取り > 構成・表現形式を評価する力	> 考えを形成し深める力 ・情報を編集・操作する力	> 考えを形成し深める力 ・新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力 ・新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力
(記述式の場合) テキストの内容を説明する問題(筆者の考えなど)	①テキストの部分的把握・理解	構造や内容の把握して、テキストに挿入すべき語句を答える	構造や内容の把握して、テキストに挿入すべき語句を答える		
	※テキストの部分的な内容を把握・理解して解答する問題	構造や内容の把握して、テキストの内容を答える	構造や内容の把握して、テキストの内容を答える		
		テキストの中における、比喩表現の示す内容を答える	テキストの中における、比喩表現の示す内容を答える	○テキストに書かれていること(構造や内容)を把握・理解する ○テキストの情報について答える	
	①選択式・短答式	テキストの中における、抽象的表現や難しい表現の意味内容を答える	テキストの中における、抽象的表現や難しい表現の意味内容を答える		
			テキストの特定の場面における登場人物の心情、ある心情に基づく言動を答える		
	②テキストの全体の把握・理解		テキストにおける筆者の主張とその主張の理由・根拠を説明する	○テキストを全体的に把握・理解して、精査・解釈を行う ○テキストに示された情報と情報の関係性を吟味する等、精査・解釈して答える	
	※テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題		テキストに表現された事物について、目的・場面・文脈・状況等を説明する		
	②選択式・条件付記述式		テキストの会話や表現等に着目して、登場人物の心情の変化等を説明する		
			テキストを通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点について説明する	○テキストの全体的に把握・理解し、精査・解釈を踏まえて、情報を編集・操作して、考えを形成し深める ○テキストの情報を多角的・多面的に精査し構造化したり、構成・表現形式を評価したりする等の精査・解釈によって得られた情報を操作・編集し、テキストの内容を説明する	
			目的に応じてテキスト全体を要約し、論旨に沿って説明する		
(記述式の場合) 考えを文章化する問題	③情報の編集・操作		テキスト全体の論旨を把握し、推論による内容の補足をして、筆者の主張について論じる	テキスト全体の論旨を把握し、推論による内容の補足をして、筆者の主張について論じる	
	※テキストの全体的な精査・解釈によって得られた情報を編集・操作して解答する問題(テキストの内容を基に考えを文章化する問題)		テキスト全体の論旨を把握し、既有知識や経験による内容の精緻化を行って論じる	テキスト全体の論旨を把握し、既有知識や経験による内容の精緻化を行って論じる	
	③選択式・条件付記述式		テキスト全体の論旨を把握し、目的に応じて必要な情報を付加、統合して比較したり、関連づけたりにして論じる	テキスト全体の論旨を把握し、目的に応じて必要な情報を付加、統合して比較したり、関連づけたりにして論じる	○テキストの全体的な精査・解釈を踏まえ、自分の考えと統合・構造化して、考えを形成し深める ○(テキストの情報をいくつか、)自分の考えを論じる
			複数のテキストの妥当性を吟味し、情報を統合・構造化して論じる	複数のテキストの妥当性を吟味し、情報を統合・構造化して論じる	
	④自分の考えとの統合		テキストにおける筆者の主張を踏まえつつ、自分の考えを形成して論じる		テキストにおける筆者の主張を踏まえつつ、自分の考えを形成して論じる
	※テキストの全体的な精査・解釈を踏まえ、自分の考えと統合・構造化して解答する問題		テキストに示された図表等の情報を分析した上で、仮説を立てて、自分の考えを論じる		テキストに示された図表等の情報を分析した上で、仮説を立てて、自分の考えを論じる
	④自由記述式・小論文		テキストの論旨を踏まえて、既有知識・経験を具体的に挙げながら、自分の考えを論じる		テキストの論旨を踏まえて、既有知識・経験を具体的に挙げながら、自分の考えを論じる
			テキストを踏まえて、テキストと自分自身との関わりについて考えたり、想像したりして、自分の考えを形成して論じる		テキストを踏まえて、テキストと自分自身との関わりについて考えたり、想像したりして、自分の考えを形成して論じる

※解答させる内容と資質・能力、出題形式との関係は、代表的な例を挙げているものであり、問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」における記述式の導入について(イメージ案)



大学入学者選抜試験における記述式問題出題に関する 国立大学協会としての考え方

平成 28 年 12 月 8 日

国立大学協会

11月4日に小樽市で開催された国立大学協会と文部科学省の意見交換会において、文部科学省から、懸案となっている平成32年度から実施予定の「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」（以下、「新テスト」）における記述式問題の出題方式、採点方法等についての新たな提案がなされた。その内容は、2つのパターンの記述式問題を国語科の試験の中で出題するとするものであり、より深く思考力・判断力・表現力等の能力を問う中～高難易度の問題のパターン1と、80字程度の短文記述式により基盤的能力を問う中難易度の問題のパターン2から構成される。前者の採点は学生が受験する各大学が行うのに対し、後者は大学入試センターが採点し段階別評価まで行い、各大学が確認・活用するという制度設計である。

文部科学省からの本提案を受け、国立大学協会としての大学入学者選抜試験における記述式問題出題に関する現時点での基本的な考え方を以下に示す。

- (1) 国立大学は、大学入学者選抜全体（共通試験・個別試験）を通して、論理的思考力・判断力・表現力等を評価する記述式試験を実施し、高等学校教育と大学教育双方の改革の推進に資する。

とくに高等学校教育への波及効果の観点からは、「新テスト」における記述式試験は国公立大学を通じた多くの大学が利用可能な設計が不可欠である。また、国立大学としては、高大接続システム改革に積極的に参画し主導していくために、個別試験においても記述式試験の実施により論理的思考力・判断力・表現力等を適切に評価する。

- (2) すべての国立大学受験生に、個別試験で論理的思考力・判断力・表現力等を評価する高度な記述式試験を課すことを目指す。

ここでいう高度な記述式試験のイメージは、例えば、複数の素材を編集・操作し、自らの考えを立論し、さらにそれを表現するプロセスを評価できる問題であり、そのような問題を各大学（学部）がアドミッション・ポリシーに基づいて作題し、大学入学者選抜要項等において出題意図、求める能力等を明確にした上で受験生に課す。なお、その具体的な内容、方法等については各大学の主体的な判断に委ねる。また、教員構成等の理由で問題を独自に作成することに困難を抱える大学にあっては、大学間の合意・調整が整えば複数の大学が協働して共通問題を作題することや後述(4)のように当面新テストのパターン1を活用することもありうる。

- (3)「新テスト」のパターン2を、具体的な問題例と採点基準等を今後十分に吟味・確認した上で、5教科7科目の中の国語において、国立大学の一般入試の全受験生に課す方向で検討する。

より多くの大学が利用可能な制度設計として、「新テスト」のパターン2の提案は一定の評価ができる。ただし、その実現のためには、今後、大学入試センターにおいて、論理的思考力・判断力・表現力等を一定レベルで包括的に評価するための出題内容の質保証に加えて、円滑な試験実施可能性や採点の公正性担保などさらに厳密に検討されることが大前提となる。今後、具体的な問題例と採点基準等を十分に吟味・確認した上で、国立大学の一般入試の全受験生に課すことを検討したい。なお、大学入試センターは責任をもって段階別表示のデータを提供し、提供されたデータについての各大学の活用方法については、各大学が自由に工夫できるようにすべきである。

- (4)「新テスト」のパターン1を、個別試験として課すべき記述式試験の選択肢の一つに位置付ける方向で検討する。

当面は、各大学の判断により「新テスト」のパターン1を個別試験として課すべき記述式試験として選択し、各大学においてその採点を行い入学者選抜に活用することが考えられる。パターン1の問題の質保証が前提となるとともに、今後大学の負担軽減方策が示されれば選択肢としての実現可能性は高まる。

なお、「新テスト」においてパターン1とパターン2の双方を組み合わせで出題することについては、試験実施上の観点や受験生の立場からすると、同一の試験時間の中で、2つのパターンのいずれか又はその両方を解答させることとなり、複雑で混乱を招くことも懸念されることから、その点を配慮した方策も必要である。例えば、パターン1を「新テスト」の中で実施するのではなく、パターン1に相当する記述式問題を各大学の個別試験問題として活用することができるよう、各大学の求めに応じて、大学入試センターが提供するという方法についても、各大学の試験時間の調整などの技術的課題への対応方策を含め、検討すべきであろう。

今後の「新テスト」の記述式問題の具体的な内容・方法に関する検討においては、試験実施上の課題や受験生の立場にも十分配慮することが求められる。また、マークシート式問題についても、各教科・科目の特性を踏まえつつ、その作問の改善を図り、「新テスト」全体として、論理的思考力・判断力・表現力等を評価することが重要である。さらに、大学や高等学校における「新テスト」利用の在り方等に関する議論を深めるためにも、多くの問題例や採点基準が早期に示されることを望みたい。

最後に、国立大学協会としては、プレテスト等を通した「新テスト」のパターン1及び2の実現可能性についての今後の検討プロセスに積極的に関与する用意があることを付言しておく。

以 上

共通テスト・個別試験の記述式に関する新センターと大学の役割分担

-国立大学協会としての考え方（12月8日）を踏まえたイメージ-

		問題作成	出題 (テストの実施)	採点
○基盤的能力を問う問題 (短文記述式) ※ 国立大学の一般入試の全受験生に課す方向で検討する。	パターン2	新センター	新センター	新センター
○より深く能力を問う問題 (より文字数の多い問題) ※ 個別試験で課すべき記述式試験の選択肢の一つ。	パターン1	新センター	新センター	大学
	パターン1' (注1)	新センター	大学	大学
○高度な記述式問題(注2) ※ 全ての国立大学受験生に課すことを目指す。 作題困難な大学は、複数大学で作題又は当面パターン1の活用もありうる。	個別試験	大学	大学	大学

※ 「大学入学者選抜における国立大学協会としての考え方(12月8日)」に盛り込まれている内容。

(注1)「国立大学協会としての考え方」において、パターン1の選択肢の一つとして例示。

(注2)「国立大学協会としての考え方」において、例えば、複数の素材を編集・操作し、自らの考えを立論し、さらにそれを表現するプロセスを評価できる問題。

そのような問題を各大学(学部)がアドミッション・ポリシーに基づいて作題し、大学入学者選抜要項等において出題意図、求める能力等を明確にした上で受験生に課す。

平成29年度試験実施日一覧

[国立]

大 学 名	前期日程 試験実施日	備考	後期日程 試験実施日	備考
北海道	2/25・26	26日は医（医） の面接	3/12	
北海道教育	2/25～27	26・27日は実 技、面接	3/12・13	13日は実技、面 接
室蘭工業	2/25		課さない	
小樽商科	2/25		課さない	
帯広畜産	2/25		課さない	
旭川医科	2/25・26	26日は医（医） の面接	3/12	
北見工業	課さない		3/12	
弘前	2/25・26	26日は医（医） の面接	3/12	
岩手	2/25・26	26日は教育の実 技	3/12	
東北	2/25・26		3/12	
宮城教育	2/25・26	26日は教育の実 技	3/12・13	13日は場合によ って実施
秋田	2/25・26	26日は医（医） の面接	3/12	
山形	2/25・26	26日は26日は地域 教育文化、医 （医）の面接等、 医（看護）の面接	3/12	理、工（昼）、 農は課さない
福島	2/25・26	行政政策学類 （昼）、経営経営学 類（昼）は26日から	3/12	
茨城	2/25		3/12	理学部物理学コース 化学コース生物 科学コース地球環 境科学コース学際 理学コース、農は 課さない
筑波	2/25・26	26日は医学群の面 接、体育専門学群 の実技等	3/12	
筑波技術	2/25			
宇都宮	2/25		3/12	教育、農は課さ ない
群馬	2/25・26	26日は医（医） の面接	3/12	
埼玉	2/25・26	26日は教育の実技 等、理、工は26日 から	3/12	
千葉	2/25・26	26日は教育、医、畜 産の面接等、国際教 養学部の特設型入試	3/12・13	13日は医の面接
東京	2/25・26			
東京医科歯科	2/25・26	26日は医、歯の 面接	3/12・13	13日は医（ 歯）の面接
東京外国語	2/25		3/12	
東京学芸	2/25・26	26日は教育の実 技等	3/12・13	13日は教育の実 技等
東京農工	2/25		3/12	
東京芸術	2/25～3/9			
東京工業	2/25・26		3/13	
東京海洋	2/25		3/12	
お茶の水女子	2/25・26		3/12	
電気通信	2/25		3/12	
一橋	2/25・26		3/12	
横浜国立	2/25	経営は課さない	3/12	
新潟	2/25～27	法は26日から 27日は医（医）の 面接	3/12	
長岡技術科学	2/25			
上越教育	2/25		3/12	
富山	2/25・26	26日は医（医）、芸術文化（1類）の面接、経済（夜）は課さない	3/12・13	13日は医（医）の面接。工学部（生命工学科を除く）は課さない
金沢	2/25・26	26日は医学類の 面接	3/12	
福井	2/25・26	26日は医の面接	3/12	
山梨	2/25		3/12・14	15日は医（看護）の面接
信州	2/25・26	26日は教育の面接 等、医（医）の面接	3/12	経法は課さない

大 学 名	前期日程 試験実施日	備考	後期日程 試験実施日	備考
岐阜	2/25・26	26日は教育の実 技、医（医）の 面接	3/12・13	13日は医（医） の面接
静岡	2/25		3/12	
浜松医科	2/25・26	26日は医の面接	3/12	
名古屋	2/25～27	27日は医（医） の面接	3/12	
愛知教育	2/25・26	26日は教育の実 技	3/12	
名古屋工業	2/25・26	26日は創造工学 教育課程の面接	3/12・13	13日は創造工学 教育課程の面接
豊橋技術科学	2/25			
三重	2/25・26	26日は医の面接	3/12	
滋賀	2/25	経済（夜）は課さない、 志願者が多い場合26日に 教育の実技を実施	3/12	
滋賀医科	2/25・26	26日は医（医） の面接等		
京都	2/25～27	27日は医（医） の面接	3/12	
京都教育	2/25・26		3/12	
京都工芸繊維	2/25・26		3/12	
大阪	2/25・26	26日は医 （医）、歯の面 接		
大阪教育	2/25・26	26日は実技	3/12	
兵庫教育	2/25・26	26日は学校教育 の実技	3/12	
神戸	2/25	26日は医（医）の面 接、発達科の音楽のみ 27日に実施すること がある	3/12	
奈良教育	2/25		3/12	
奈良女子	2/25		3/12	
和歌山	2/25		3/12	
鳥取	2/25・26	26日は医の面接	3/12	農は課さない
島根	2/25・26	26日は医の面接	3/12	
岡山	2/25・26	26日は医、歯の 面接	3/12	
広島	2/25・26	26日は医、歯の 面接	3/12・13	13日は歯（歯） の面接
山口	2/25・26	26日は教育の実 技等、医の面接	3/12・13	13日は医の面接
徳島	2/25・26	26日は医（医）、歯 （歯）、生物資源産業 （生物資源産業）の面接	3/12	
鳴門教育	2/25・26		3/12	
香川	2/25・26	26日は医（医） の面接	3/12・13	13日は医（医） の面接
愛媛	2/25・26	26日は医の面接	3/12・13	13日は医の面接
高知	2/25・26	26日は教育の実技、 医、農林海洋科、地 域協働の面接	3/12	
福岡教育	2/25・26		3/12・13	
九州	2/25・26		3/12	
九州工業	2/25		3/12	
佐賀	2/25・26	26日は医の面接	3/12・13	13日は医の面接
長崎	2/25・26	26日は中学教育コース 技術専攻、医 （医）の面接	3/12	
熊本	2/25・26	26日は教育の面 接等、医（医） の面接	3/12	
大分	2/25・26	26日は医の面接	3/12	
宮崎	2/25・26	26日は教育、医 の面接	3/12・13	13日は医の面接
鹿児島	2/25・26	26日は教育の実技 等、医（医）、歯 の面接	3/12・13	13日は教育の実 技
鹿児島体育	2/25・26	26日は体育の実 技		
琉球	2/25・26	26日は法文 （昼）・医の面 接、教育の実技等	3/12・13	13日は教育の実 技等

※大学全体で当該日程での募集がないものは空欄としている。

※各日程試験実施日欄及び備考欄において、募集人員を設定しているが、個別試験を課さない場合は「課さない」と表記している。

国立大学平成29年度入学者選抜 個別学力検査における国語の試験日時について

○北海道大学

総合入試（文）	2月25日	15:00～17:00（2時間）
文学部	2月25日	15:00～17:00（2時間）
教育学部	2月25日	15:00～17:00（2時間）
経済学部	2月25日	15:00～17:00（2時間）
法学部	2月25日	15:00～17:00（2時間）

○東北大学

文学部	2月25日	13:30～15:30（2時間）
教育学部	2月25日	13:30～15:30（2時間）
法学部	2月25日	13:30～15:30（2時間）
経済学部	2月25日	13:30～15:30（2時間）

○東京大学

文科一類	2月25日	9:30～12:00（2時間30分）
文科二類	2月25日	9:30～12:00（2時間30分）
文科三類	2月25日	9:30～12:00（2時間30分）
理科一類	2月25日	9:30～11:10（1時間40分）
理科二類	2月25日	9:30～11:10（1時間40分）
理科三類	2月25日	9:30～11:10（1時間40分）

○名古屋大学

文学部	2月26日	14:10～15:55（1時間45分）
教育学部	2月26日	14:10～15:55（1時間45分）
経済学部	2月26日	14:10～15:55（1時間45分）
理学部	2月26日	14:10～15:55（1時間45分）
医学部（医学科）	2月26日	14:10～15:55（1時間45分）

○京都大学

総合人間学部（文）	2月25日	9:30～11:30（2時間）
総合人間学部（理）	2月25日	9:30～11:00（1時間30分）
文学部	2月25日	9:30～11:30（2時間）
教育学部（文）	2月25日	9:30～11:30（2時間）
教育学部（理）	2月25日	9:30～11:00（1時間30分）
法学部	2月25日	9:30～11:30（2時間）
経済学部（文）	2月25日	9:30～11:30（2時間）
経済学部（理）	2月25日	9:30～11:00（1時間30分）
理学部	2月25日	9:30～11:00（1時間30分）
医学部	2月25日	9:30～11:00（1時間30分）
薬学部	2月25日	9:30～11:00（1時間30分）
工学部	2月25日	9:30～11:00（1時間30分）
農学部	2月25日	9:30～11:00（1時間30分）

○大阪大学

文学部	2月25日	15:45～17:45 (2時間)
人間科学部	2月25日	15:30～17:00 (1時間30分)
法学部	2月25日	15:30～17:00 (1時間30分)
経済学部	2月25日	15:30～17:00 (1時間30分)
外国語学部	2月25日	15:30～17:00 (1時間30分)

○九州大学

文学部	2月26日	10:00～12:00 (2時間)
教育学部	2月26日	10:00～12:00 (2時間)
法学部	2月26日	10:00～12:00 (2時間)
経済学部 (経済・経営学科)	2月26日	10:00～12:00 (2時間)
経済学部 (経営工学科)	2月26日	10:40～12:00 (1時間20分)

2 出題教科・科目等

教科	グループ	出題科目	出題方法等	科目選択の方法等	試験時間(配点) (→注1)
国語		「国語」	「国語総合」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章、古典(古文、漢文)を出題する。(→注2)		80分(200点)
地理歴史		「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」	「倫理、政治・経済」は、「倫理」と「政治・経済」を総合した出題範囲とする。	左記出題科目の10科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 ただし、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。(→注3) なお、受験する科目数は出願時に申し出ること。	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分) (200点) (→注4)
公民		「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」			
数学	①	「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ・数学A」	「数学Ⅰ・数学A」は、「数学Ⅰ」と「数学A」を総合した出題範囲とする。 ただし、次に記す「数学A」の3項目の内容のうち、2項目以上を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔場合の数と確率、整数の性質、図形の性質〕	左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。	60分(100点)
	②	「数学Ⅱ」 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」※ 「情報関係基礎」※	「数学Ⅱ・数学B」は、「数学Ⅱ」と「数学B」を総合した出題範囲とする。 ただし、次に記す「数学B」の3項目の内容のうち、2項目以上を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔数列、ベクトル、確率分布と統計的な推測〕 「簿記・会計」は、「簿記」及び「財務会計Ⅰ」を総合した出題範囲とし、「財務会計Ⅰ」については、株式会社の会計の基礎的事項を含め、「財務会計の基礎」を出題範囲とする。 「情報関係基礎」は、専門教育を主とする農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報及び福祉の8教科に設定されている情報に関する基礎的科目を出題範囲とする。	左記出題科目の4科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、※が付された科目の問題冊子の配付を希望する場合は、出願時に申し出ること。	60分(100点)
理科	①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」		左記出題科目の8科目のうちから下記のいずれかの選択方法により科目を選択し、解答する。	【理科①】 2科目選択 60分(100点) (→注5)
	②	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」には、一部に選択問題を配置する。	A 理科①から2科目 B 理科②から1科目 C 理科①から2科目及び理科②から1科目 D 理科②から2科目 なお、受験する科目の選択方法は出願時に申し出ること。	【理科②】 1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分) (200点) (→注4)
外国語		「英語」 「ドイツ語」※ 「フランス語」※ 「中国語」※ 「韓国語」※ (→注6)	「英語」は、「コミュニケーション英語Ⅰ」に加えて「コミュニケーション英語Ⅱ」及び「英語表現Ⅰ」を出題範囲とする。	左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、※が付された科目の問題冊子の配付を希望する場合は、出願時に申し出ること。	【筆記】 80分(200点) 【リスニング】 (「英語」のみ) 60分(うち解答時間30分) (50点)

- (注1) 国語及び外国語（「英語」を除く。）は、各教科について1試験時間とし、地理歴史及び公民については、合わせて1試験時間とします。数学及び理科は、①及び②の出題科目のグループごとに、外国語「英語」は、筆記とリスニングに試験時間を分けます。
- (注2) 「国語」の出題分野別の配点は、「近代以降の文章(2問100点)、古典(古文(1問50点)、漢文(1問50点))」とします。
なお、国語の出題分野のうち、大学が指定した分野のみを解答する場合でも、国語の試験時間は80分です。
- (注3) 地理歴史及び公民の「科目選択の方法等」欄中の「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「世界史A」と「世界史B」，「日本史A」と「日本史B」，「地理A」と「地理B」，「倫理」と「倫理、政治・経済」及び「政治・経済」と「倫理、政治・経済」の組合せを指します。
- (注4) 「地理歴史、公民」及び「理科②」の試験時間において「2科目受験する」と登録した場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行いますが、第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加え、試験時間は130分とします。
- (注5) 「理科①」については、1科目のみの受験は認めません。
- (注6) 外国語において「英語」を選択する受験者は、原則として、筆記とリスニングの双方を解答してください。リスニングは、音声問題を用い30分間で解答を行いますが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加え、試験時間は60分とします。
なお、「英語」以外の外国語の筆記を受験した場合、リスニングを受験することはできません。

平成29年度大学入試センター試験（本試験）科目別受験者数及び平均点について

受験者数 547,591人

教科名	科目名	受験者数	平均点	最高点	最低点	標準偏差	教科名		科目名	受験者数	平均点	最高点	最低点	標準偏差
国語 (200点)	国語	519,129	106.96 (53.48)	200 (100)	0 (0)	35.44 (17.72)	数 学	数学① (100点)	数 学 I	6,156	34.02	98	0	19.95
									数 学 I ・ 数 学 A	394,557	61.12	100	0	21.35
地理歴史 (100点)	数学② (100点)	数 学 II	5,971	25.11	98	0		15.63						
		数 学 II ・ 数 学 B	353,836	52.07	100	0		24.29						
		簿 記 ・ 会 計	1,482	49.83	98	8		19.75						
		情 報 関 係 基 礎	524	54.94	98	0		17.06						
		理科① (50点)	物 理 基 礎	19,406	29.69 (59.38)	50 (100)	0 (0)	11.87 (23.74)						
			化 学 基 礎	109,795	28.59 (57.18)	50 (100)	0 (0)	10.87 (21.74)						
	生 物 基 礎		136,170	39.47 (78.94)	50 (100)	0 (0)	9.56 (19.12)							
	地 学 基 礎		47,506	32.50 (65.00)	50 (100)	0 (0)	10.48 (20.96)							
	理科② (100点)	物 理	156,719	62.88	100	0	22.45							
		化 学	209,400	51.94	100	0	20.86							
		生 物	74,676	68.97	100	0	17.65							
		地 学	1,660	53.77	100	0	19.77							
公民 (100点)	現代社会	76,490	57.41	100	0	17.72	外国語	【筆記】 (200点)	英 語	540,029	123.73 (61.86)	200 (100)	0 (0)	44.95 (22.47)
									ド イ ツ 語	116	128.66 (64.33)	197 (98)	30 (15)	45.83 (22.91)
	倫 理	22,022	54.66	98	0	16.05			フ ラ ン ス 語	134	142.60 (71.30)	200 (100)	37 (18)	44.41 (22.20)
									中 国 語	558	164.91 (82.45)	200 (100)	42 (21)	33.49 (16.74)
	政治・経済	54,243	63.01	100	0	17.87			韓 国 語	185	128.95 (64.47)	200 (100)	28 (14)	41.00 (20.50)
									【リスニング】 (50点)	英 語	532,627	28.11 (56.22)	50 (100)	0 (0)
	倫理，政治・経済	50,486	66.63	100	0	14.90								

(注1) 平均点，最高点，最低点及び標準偏差欄の()内の数値は，100点満点に換算したものである。

センター試験における古典の扱いの経緯について

1. センター試験における経緯

S 6 3. 2 「大学入試改革について（報告）」（昭和 63 年 2 月 15 日大学入試改革協議会）において、「特定教科・科目の特定分野のみの結果を利用することが考えられる。」旨の提言があった。

H 2. 1 大学入試センター試験開始

H 3. 1 「近代以降（評論、小説）」、「古文」、「漢文」の 3 分野を別々に成績提供することも可能とした。（現在まで同じ）

2. 学習指導要領における取扱い

～H 1 7 古典は必履修

H 1 8 ～H 2 7 「国語総合」（古典必履修）と「国語表現Ⅰ」（古典は学習内容に含まれない）の 2 科目のうち 1 科目を選択して必履修とすることが可能（国語総合は、全日制普通科高校（2,466 校）の 90%以上が高校 1 年時に開設）

H 2 8 ～ 古典は必履修

国語請求大学・学部・提供者の大問別請求パターン内訳

大学の50%以上が大学入試にセンター試験の古典を活用しておらず、**約35%の受験者が成績提供の対象となっていない**。
平成28年度試験における国語成績提供の大問別請求パターンにおいて、「近代以降のみ」を請求する大学数及び学部数は国公私立とも対24年度比それ程変わらない中で、提供者数については全体として対24年度比11.9%増である中、この増加の影響の大部分は私立大学である。（13.4%増）

平成24年度試験

国語大問別請求	大学数						学部数						提供者数					
	国立	公立・公立短期	私立	私立短期	計	割合	国立	公立・公立短期	私立	私立短期	計	割合	国立	公立・公立短期	私立	私立短期	計	割合
近代以降のみを請求 (a)	6	24	350	107	487	50.8%	9	38	893	246	1,186	47.2%	5,536	7,861	394,966	5,903	414,266	31.9%
全パターン ※1	82	77	224	43	426	44.5%	379	177	580	89	1,225	48.7%	370,155	121,147	319,571	1,824	812,697	62.7%
その他の請求パターン ※2	0	3	39	3	45	4.7%	0	5	92	7	104	4.1%	0	525	69,344	251	70,120	5.4%
計	88	104	613	153	958		388	220	1,565	342	2,515		375,691	129,533	783,881	7,978	1,297,083	



平成28年度試験

国語大問別請求	大学数						学部数						提供者数					
	国立	公立・公立短期	私立	私立短期	計	割合	国立	公立・公立短期	私立	私立短期	計	割合	国立	公立・公立短期	私立	私立短期	計	割合
近代以降のみを請求 (b)	6	23	369	100	498	51.3%	7	35	991	209	1,242	47.4%	3,413	7,811	447,934	4,547	463,705	34.8%
全パターン ※1	84	82	217	43	426	43.9%	424	182	581	87	1,274	48.6%	346,720	128,576	315,526	1,817	792,639	59.5%
その他の請求パターン ※2	0	3	41	2	46	4.7%	0	5	96	2	103	3.9%	0	642	75,167	191	76,000	5.7%
計	90	108	627	145	970		431	222	1,668	298	2,619		350,133	137,029	838,627	6,555	1,332,344	
(a)→(b)の増減率													△38.3%		13.4%		11.9%	

※1) 大問別得点を全て請求又は大問別得点請求無
※2) 近代以降及び古文、近代以降及び漢文、古文及び漢文のいずれかのパターンで請求

平成25～27年度試験については調査中。